特集 川崎に水が届くまで

川崎の水がどこから来ているか、知っていますか？

かわさきの水源

今から100年前の1924年、川崎市が誕生しました。その後も市は発展を続け、周辺町村と合併しながら市域を拡大し人口が急増していきます。その結果、最初の水源であった多摩川からの取水では足りず、遠く相模川や酒匂川まで水源を求めたのです。

現在、川崎の水道水は、4つの湖から届いています。富士山のふもと、忍野八海の湧き水が流れている、相模川上流の相模湖、津久井湖。そして酒匂川上流の丹沢湖。さらに中津川上流の宮ヶ瀬湖です。ずいぶん、遠くから来ていると思いませんか？

※各ダム（湖）の貯水率は、令和6年5月16日現在の数値です。

貯水状況はこちら

大切な水源林のこと、考えてみませんか？

神奈川県の東の端と西の端に位置する川崎市と山北町ですが、この山北町には、川崎の水源の１つ丹沢湖があります。その山北町の共和という地域で、水源林を守る活動をしている井上さんに話を聞いてきました！

NPO法人 共和のもり
井上さん

川崎市と山北町の関係は？

山北町-川崎市交流事業で川崎市民を山北町に招いています

平成24年から、川崎市上下水道局とタッグを組んで、水を使う側の川崎市民の皆さんに水を生み出す側の山北に来てもらい、間伐見学や、この地域ならではの自然体験なんかをしてもらってるんだ。季節によってメニューはいろいろだけど、ヤマメのつかみ獲りやスイカ割りをしてるときの子どもたちの目って、本当にキラキラしてるんだよな。今から100年後の川崎にもいい水が届けられるよう、これからもお互いに協力して、この活動を続けていきたいね。

なぜ水源林は重要？

別名「緑のダム」と呼ばれ、水質に関係しています

水源林は、降った雨が木々の生える山の土に蓄えられて、少しずつ湧き水になっていく。これによって、水質を綺麗にしたり、土砂流出を防いでいるんだ。だから水源林は、別名「緑のダム」と呼ばれているんだ。

山北町の方の思い

水源林のことを考えるきっかけに山北町-川崎市交流事業に参加してほしい

山北町の課題

山水害　動物環境　山の維持管理

山北の地域住民の力だけでは、山の整備は難しい

水源林には、様々な課題がある。だけど、山北に限らず神奈川県西部地域は、川崎や横浜市民の生活を支える水源を担っているんだ。そしてこれらの水源地域は他都市の協力を強く必要としている。川崎市民の方が水源林のことを考える１つのきっかけとして、ぜひ「山北町ー川崎市交流事業」に参加してほしいね。

参加者募集中！

市制100周年記念 山北-川崎☆水源林レスキュー隊【山北町-川崎市交流事業】

重要 お申し込み方法については4ページをご覧ください。

日時　1回目8/20（火）2回目10/5（土）3回目11/30（土）7:30出発　17:45解散（予定）

参加資格　川崎市内在住の小学生（3年生以上）・中学生 ※保護者同伴　全ての日程に参加できる方　集合場所　中原区役所

ディープに！楽しく！親子で学べる山北町へ！！

市制100周年を迎える今年、いつものツアーが、ディープに山北を楽しむプログラムにパワーアップ！
全3回にわたり、様々な体験メニューを通じて川崎と山北の関係や水源林について楽しく学べます！
最後には、「水源林レスキュー隊（見習い）」の称号がもらえるかも？
たくさんのお申し込みをお待ちしています！

メニュー

第1回（8/20）
竹串工作・芽接ぎ体験
昼食：流しそうめん、ヤマメの塩焼

第2回（10/5）
野菜の収穫・木挽のこぎり
昼食：野菜たっぷりキノコうどん

第3回（11/30）
大野山ハイキング・間伐見学
昼食：ジビエ料理

※雨天等でメニューが異なる場合がございます。

川崎の大動脈を守ります

水管理センター職員
坊さん(電気職)
※令和5年度時点

第1・第2導水ずい道って何？

ずい道とは大きなトンネルのことです

川崎の水源である湖からは、「ずい道」という大きなトンネルを通って水が運ばれてきます。第1導水ずい道は、相模原市内にある下九沢分水池から長沢浄水場まで、21.6㎞にも及びます。昭和27年に完成したときは直径2.6mの馬蹄形のトンネルでしたが、その後、平成18年まで行った全路線の改修工事で、直径2.4mの円形の管を中に入れました。
第２導水ずい道は、川崎市の発展に伴う水需要の増加に対応するため、昭和43年に完成しました。津久井分水池から西長沢浄水場までの全長24㎞、直径3.5mの大型のトンネルです。

普段のお仕事は？

ずい道の安全を守るため巡視・点検をしています

長沢浄水場まで安全に水が届くように、毎月、第１導水ずい道と第2導水ずい道の路線を巡視し、分水池や監視孔などからずい道に関連する設備などの点検をしています。
ずい道は地下深く、どの施設も階段がとても多いので、昇りきったときはさすがに息が上がりますね。

坊さんに聞いてみました！
階段が多すぎる!?

ずい道の巡視に密着！

1.津久井分水池

津久井分水池は相模湖及び津久井湖の水を取水し、第2導水ずい道と、後に第１導水ずい道に繋がる下九沢分水池へ水を届けています。ここでは、第2導水ずい道の水位計と取水ゲートに異常がないか等を確認しています。

段数：約160段

2.ずい道の監視孔

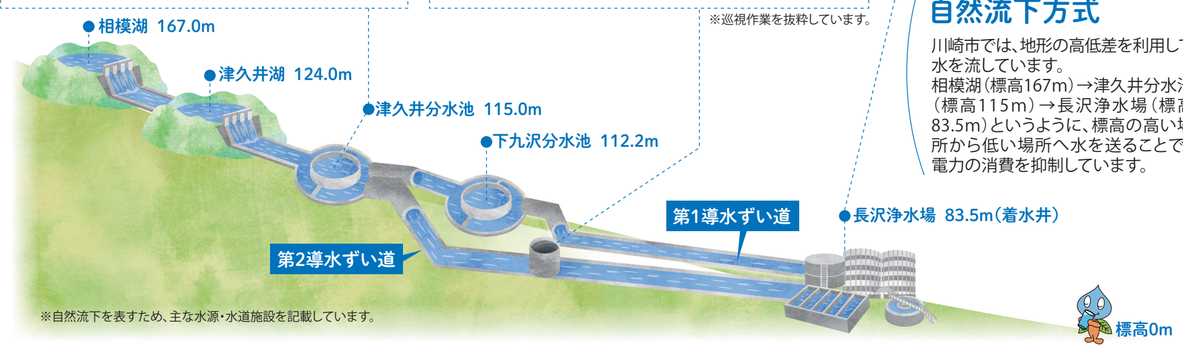
ずい道には、監視孔という地下を通る水を確認できる施設があります。写真は、第2導水ずい道の1号監視孔です。迫力のある螺旋階段を下り、水位計に異常がないか等を点検しています。

第2導水ずい道1号監視孔　段数：約180段
第2導水ずい道2号監視孔　段数：約120段

※巡視作業を抜粋しています。

長沢浄水場の着水井（ちゃくすいせい）

今まで津久井分水池や監視孔などを点検していたのは、無事に川崎市内の長沢浄水場に水を届けるためです。ずい道の水が最初に届く、浄水場の入り口を着水井と言い、無事に水源からの水が流れていることが確認できます。



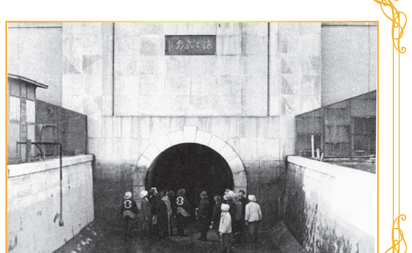
※自然流下を表すため、主な水源・水道施設を記載しています。

地球に優しい！自然流下方式

川崎市では、地形の高低差を利用して水を流しています。
相模湖（標高167m）→津久井分水池（標高115m）→長沢浄水場（標高83.5m）というように、標高の高い場所から低い場所へ水を送ることで、電力の消費を抑制しています。

市制100周年記念コラム　～上下水道の歴史～

これからはじまる
Colors, Future! Actions
さあ、いっしょに。
100th
2024年、川崎市は市制100周年

滾々不盡（こんこんとしてつきず）

相模原市にある下九沢分水池から相模川の原水を川崎市まで導く21.6kmに及ぶトンネル、第1導水ずい道の終点が長沢浄水場にある着水井です。第1導水ずい道は昭和27年(1952)、戦争による中断を経て、軟弱な地盤や湧き出る大量の地下水と闘うなど苦難の末に完成しました。昭和43年（1968）に大型の第2導水ずい道を築造してバックアップが可能となったため、昭和63年(1988)から平成18年(2006)までの間4回に分け断水し、全路線の改修を行いました。
着水井の正面には御影石が飾られ、「滾々不盡(こんこんとしてつきず)」と築造当時の川崎市長金刺不二太郎の筆跡で彫られています。